

ヒグマの 生態研究の成果紹介

ヒグマの個体群動態



セミ幼虫を食べるヒグマ



富田幹次

北海道大学・環境科学院・博士後期課程3年

学生モニタリング調査による ヒグマ個体群動態の解明 ～40年間の長期変動と春グマ駆除制度 の影響が明らかになる～

論文情報

タイトル

大型食肉目の管理に学生による調査が果たす役割：40年のヒグマ個体群モニタリングから得られた教訓（日本語訳）

著者名

滝浪洋人，石山信雄，日野貴文，久保雄広，富田幹次，辻野夢久，中村太士
(滝浪～辻野まで6名がクマ研出身)

雑誌名

Conservation Science and Practice（保全生物学の専門誌）

公表日 2021年7月13日（火）（オンライン公開）

春グマ駆除制度

- ‘66年～’90年まで実施されたヒグマ絶滅政策
- 春の残雪期に冬眠明けのヒグマを狩猟
⇒見通し・歩きやすさから捕獲効率が低い
- ヒグマ個体群衰退への懸念から廃止(’90年)
- 2015 年から北海道で早春期に実施されている
「ヒグマ対策技術者育成のための捕獲」は、
捕獲制限を設けるなど、ヒグマ個体群に配慮

1966年

1975年

1990年

2015年

春グマ
駆除制度



クマ研
天塩調査



春グマ
駆除期間

制度
廃止期間



**駆除制度期間と制度廃止期間
におけるヒグマの個体数変化を検証**

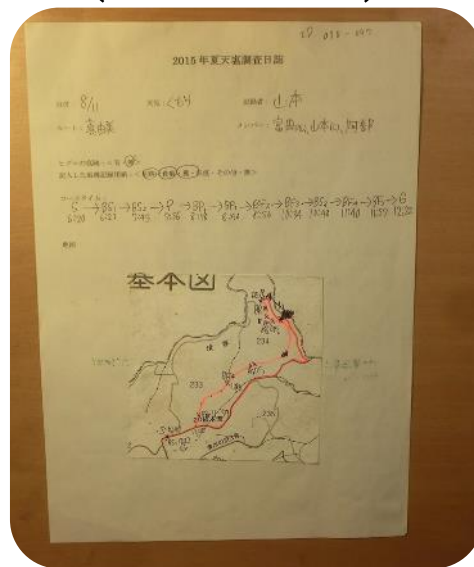
研究手法

GIS(地理情報システム)
⇒位置情報を管理するシステム

フィールド
痕跡採取



日誌記録
(1975~2015)



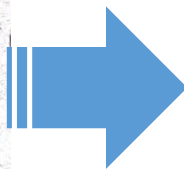
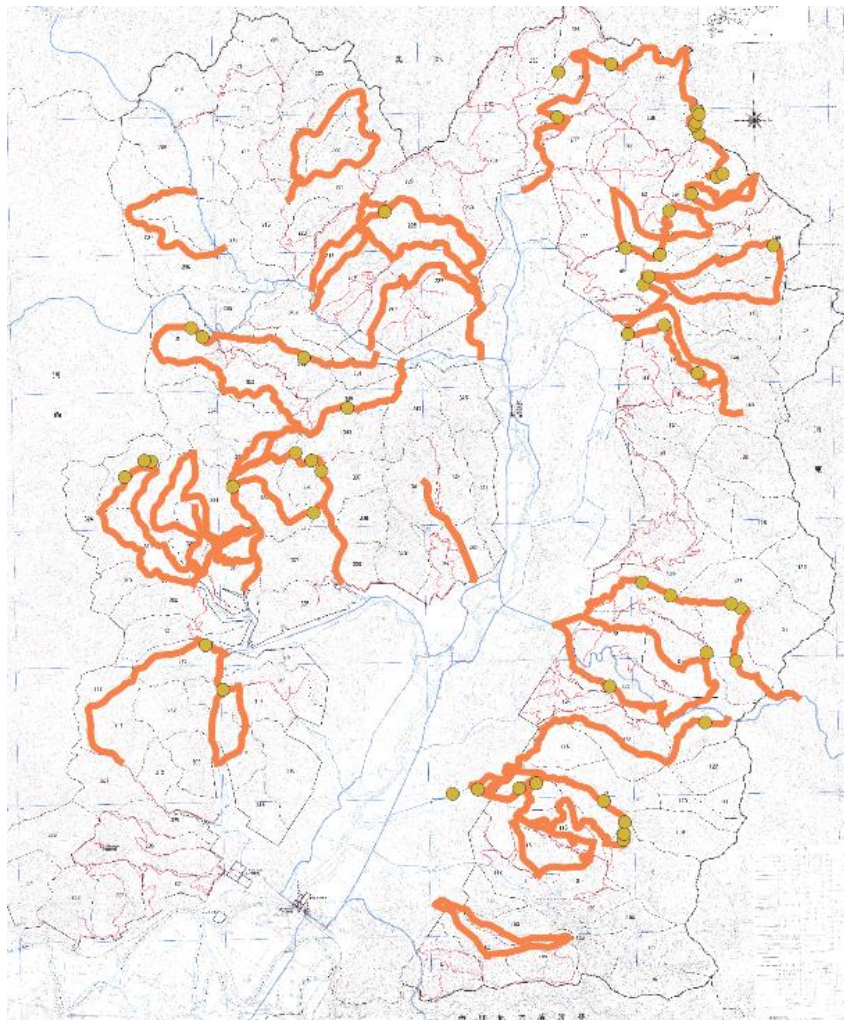
GIS
データ化



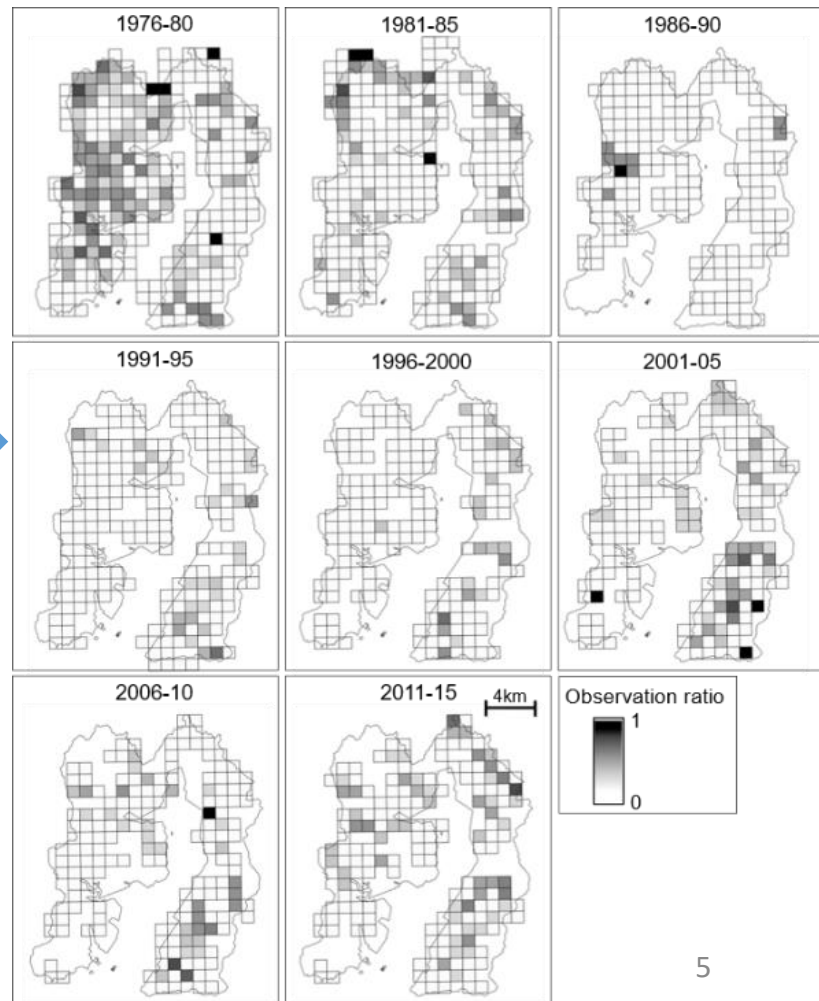
ArcGIS

研究手法

GISデータ化された痕跡
と調査ルートの情報

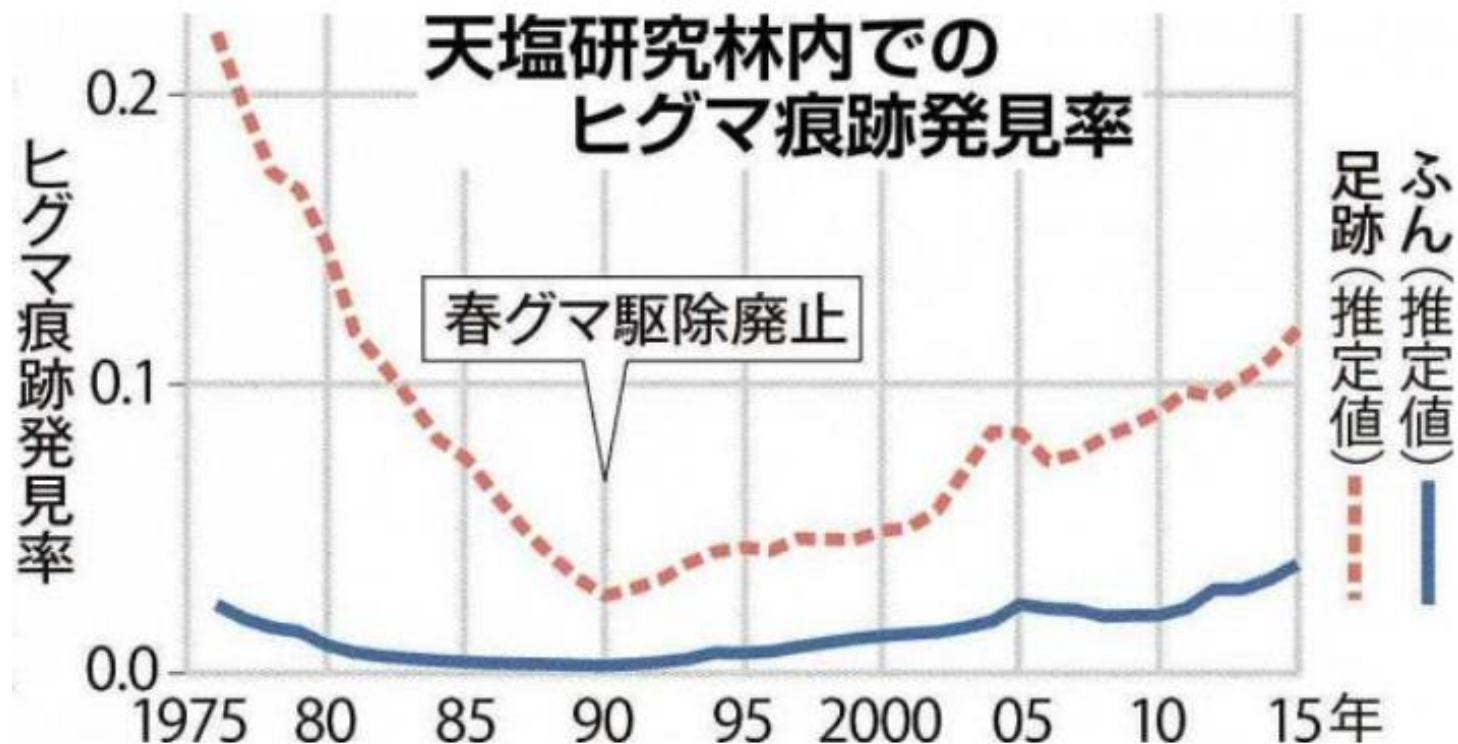


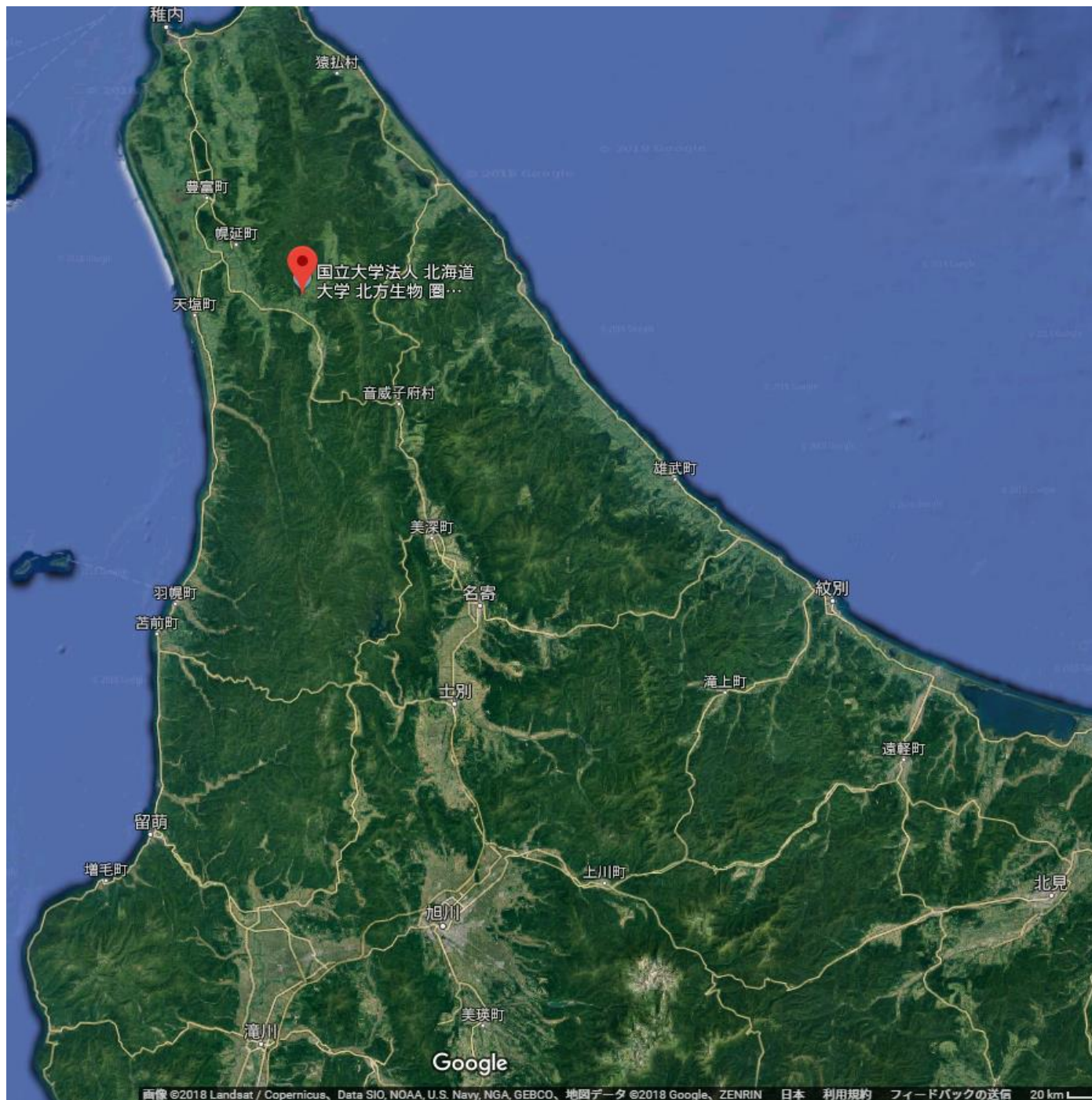
メッシュ単位での痕跡
発見率を計算



得られた知見

- 春グマ駆除はヒグマ個体数を減らした
- 制度廃止によって回復





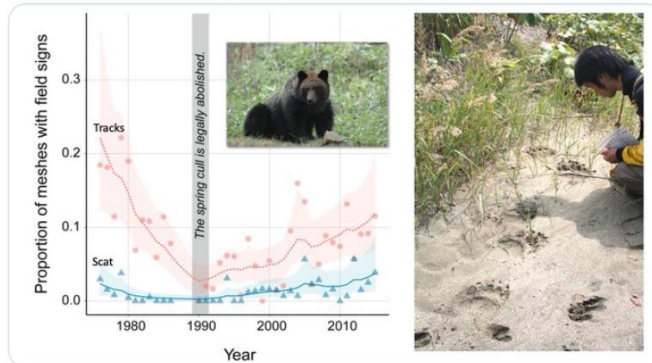
社会的インパクト

プチバズリ！

新しく論文ができました🐻

ヒグマは増えているのでしょうか？ 学生が40年間かけて行った痕跡モニタリングの結果、1) 過去の春グマ駆除政策がヒグマ個体数を大きく下げ、2)政策廃止後に個体数が回復していることが示されました。研究をリードしたのは元クマ研代表の滝浪さんです

conbio.onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/cs...



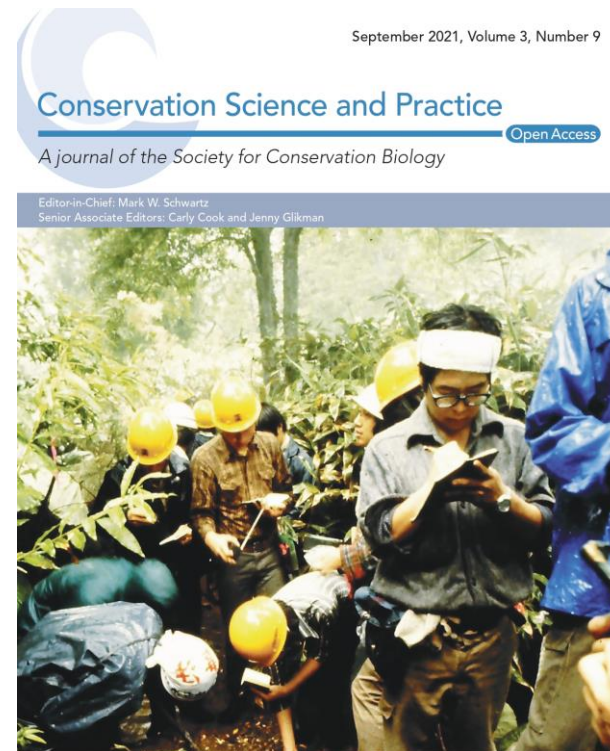
午後4:40 · 2021年7月15日 · Twitter Web App

381 件のリツイート 12 件の引用ツイート 740 件のいいね



KUBO Takahiro氏のTwitterより

国際誌の表紙！



WILEY

Conservation Science & Practice 3 (9)

世界初！！ セミ幼虫を食べるヒグマの発見

論文情報

タイトル

Brown bear digging for cicada nymphs: a novel interaction in a forest ecosystem

(和訳：地面を掘ってセミ幼虫を食べるヒグマ：森の中の新しい種間関係)

著者名

富田幹次(北海道大学)・**日浦勉**(北海道大学(当時))

雑誌名

Ecology (生態学の専門誌) (2020年1月公開)

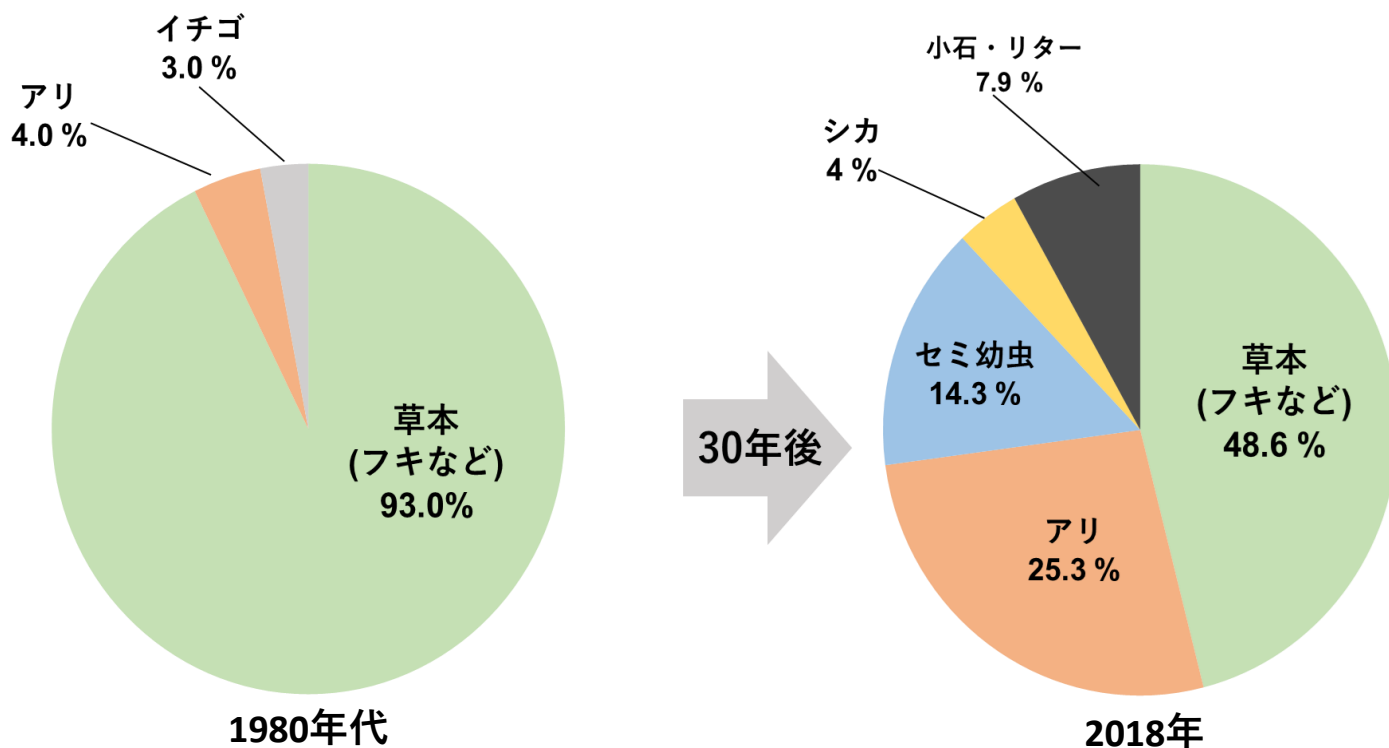
知床半島のヒグマがセミ幼虫 を食べることを発見！！ (世界唯一の報告例)





得られた知見

セミ食いは最近はじまった (だいたい2000年)



得られた知見

- カラマツ人工林にセミ幼虫が多い
- 人工林(特にカラマツ)でのみセミを食べる



富田 幹次

札幌市北区北10条西5丁目

北海道大学大学院環境科学院・生物圏科学専攻・
動物生態学研究室（A510）

博士後期課程3年

